

第97回 全国高等学校野球選手権 茨城大会 観戦記

早川 亮 (平成21年卒 水府倶楽部 元慶応大学捕手)

三の丸倶楽部の皆様には日頃より選手たちへの温かいご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昭和29年以来約60年ぶりの甲子園出場をかけた夏の県大会でしたが、第2シードの壁は厚く、健闘するも3回戦敗退という結果に終わり、選手たちもさぞ悔しかったことと思います。しかし、牛久高校戦と下館一高戦の「勝利」と言う結果を通して選手たちは大きく成長した姿を見せてくれました。

「チームを成長させるには勝つことが一番である」。これは私の15年の野球人生での教訓です。なぜ常総学院がいつも強いのか。それは毎年県内で一番勝つことを経験しているチームだからです。一方、例え弱いと思われるチームでも一回の勝利で見違えるように強くなる

事もあ

ります。
一回戦の牛久高校戦では、先制されながらも追



いつき逆転して、その後のピンチを何度も何度もしのいで勝利を掴みました。この戦いは選手たちにとって大きな自信になったと思います。二回戦の下館一高戦での試合前の表情にもそれが現れていました。敗れることなど微塵も感じさせない、自信に満ちあふれた姿でシートノックを受けていたのが非常に印象に残っています。だからこそ、最後まで投手中心に守り抜き、9回表の箱守選手のダイビングキャッチから一気に流れをたぐり寄せ、木村選手の内野安打からの怒濤の攻撃で水嶋選手のサヨナラ適時打を生んだのだと思います。市村選手の粘りの投球とそれに必死に応える守備陣、試合に出ているだけでも必死に仲間を鼓舞するベンチ入りメンバー、スタンドから大きな声で声援を送る部員たち。誰か一人でも欠けていたらこの勝利は無かったのではないかと。それぐらい一人ひとりが本気でチームのために貢献しようとしており、本当にみんなが成長した姿を見せてくれました。

ここからは新チームにエールを込めてあえて厳しいことを書こうと思います。3年生は本当に頑張った。だけど結果だけを見ればそれでも甲子園には届かない。これだけ選手たちが頑張ってもあと5回勝たないと甲子園には行くことができない。この事実は選手一人ひとりがきちんと受け止めなければいけない。どうしたらこの壁を突き破れるのか、どうしたら甲子園に手が届くのか。先

一回戦 平成27年7月7日(火)水戸市民球場

天候：曇
試合時間：1時間54分(9:57~11:51)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
牛久	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
水戸一	0	0	1	0	2	0	0	0	X	3

バッテリー：市村一海老澤
二塁打：水嶋(5回)
単塁打：木村(1回)、吉田2(1回、6回)、和田(佳)2(2回、4回)、菅谷(5回)、海老澤(5回)、市村2(6回、8回)

出場メンバー

1番	サード	木村	(3年)
2番	ショート	吉田	(3年)
3番	センター	菅谷	(3年)
4番	キャッチャー	海老澤	(3年)
5番	レフト	水嶋	(3年)
6番	ライト	和田(佳)	(3年)
7番	ファースト	皆藤	(2年)
8番	セカンド	村山	(3年)
9番	ピッチャー	市村	(2年)



二回戦 平成27年7月11日(土)笠間市民球場

天候：快晴
試合時間：2時間11分(12:30~14:41)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
下館一	2	0	0	0	1	1	0	0	0	4
水戸一	1	0	0	0	1	0	0	0	3x	5

バッテリー：市村(～5回2/3)・橋本(～5回2/3)・市村一海老澤
三塁打：和田(佳)(5回)
二塁打：和田(佳)(2回)
単塁打：吉田2(1回、9回)、菅谷2(1回、9回)、水嶋3(3回、5回、9回)、和田(佳)(3回)、市村(4回)

出場メンバー

1番	サード	木村	(3年)
2番	ショート	吉田	(3年)
3番	センター	菅谷	(3年)
4番	キャッチャー	海老澤	(3年)
5番	レフト	水嶋	(3年)
6番	ライト	和田(佳)	(3年)
7番	ファースト	皆藤	(2年)
8回代打	5回2/3ピッチャー	橋本	(3年)
8回代打	高橋(侑)	(3年)	
9回ファースト	箱守	(3年)	
8番	セカンド	村山	(3年)
9回代打	和田(智)	(3年)	
9番	ピッチャー	市村	(2年)
5回2/3ファースト			
5回2/3ピッチャー			



三回戦 平成27年7月17日(金)水戸市民球場

天候：曇・小雨
試合時間：2時間4分(9:57~12:01)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
水戸一	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
明秀日立	0	0	0	1	2	0	0	0	X	3

バッテリー：市村一海老澤
二塁打：菅谷(4回)
単塁打：木村2(1回、8回)、海老澤(5回)、村山(8回)

出場メンバー

1番	サード	木村	(3年)
2番	ショート	吉田	(3年)
3番	センター	菅谷	(3年)
4番	ライト	和田(佳)	(3年)
5番	レフト	水嶋	(3年)
6番	キャッチャー	海老澤	(3年)
7番	ファースト	皆藤	(2年)
8番	セカンド	村山	(3年)
9番	ピッチャー	市村	(2年)



輩たちの良いところはそのままに、反省点は改善していこう。本気で甲子園に行こうと思うなら決して甘えてはいけない。やれることは全部やろう。次の夏の大会まではもう1年を切っている。

最後になりますが、3年生の皆様本当にお疲れ様でした。竹内監督をはじめ小島部長、太田先生、武士先生から教えられた事はこれから君たちを何度も助けてくれるでしょう。だからこれからも成長を続けて大学、社会に羽ばたいてください。皆様のこれからの活躍を楽しみにしています。

鈴木 賢 (水府倶楽部 昭和63年卒硬式野球部主将)
観戦記 一回戦 対牛久高校

三の丸倶楽部の皆様にはいつも後輩達に温かいご支援を賜わり感謝いたします。卒業から30年近く経ちますが、スタンドから見る景色は私達がプレーした当時と何ら変わりなく、日々の生活では忘れていた「あの時の気持ち」を球場では思い出すことができます。後輩たちの活躍と自分の原点を確認するために、今後も毎年球場に足を運ぶことになるのだと思います。

歳を経て、若い時には見えていなかった様々なことも分かるようになります。私には子供はいませんが、年齢的には選手の親世代に近くなり、両親がどのような気持ちで当時の私を見つめていたのか想像できるようになりました。球場に足を運び、暑い中応援してくれた家族や友人に当時の私は果たして心から感謝することができていたのだろうか。現役諸君の表情や行動、プレーからは、他者に対しての尊敬や感謝の念、更には野球が出来ることの喜びを感じることが出来ます。その姿は頼もしく立派であり、当時の自分が恥ずかしくなるほどです。それは竹内監督をはじめとする指導者の方々、諸先生方、ご家族の温かい心遣いによるものだと感じています。



さて、初戦の牛久高校戦はバックネット裏で両校のシートノックから見る事ができました。ナインの動きは悪くない、とは言え夏の大会の初戦は緊張するものです。2回戦敗けの私達と彼等を較べるのは失礼かもしれませんが、私もこれまでに様々な緊張の場面を体験してきたつもりですが、最後の夏の初戦以上に緊張したことはないかもしれません。打席での1本、守備でひとつのアウトを取るまでは、心も身体もどこか現実味がなく落ち着いてプレーすることが難しかった記憶があります。

先発の市村は立上りこそ不安定だったものの後半は落ち着いて抑え、打線も散発ではありましたが2桁安打で終始流れをキープすることができたのが勝因だと思います。序盤の拙攻や6回のタイムリーエラーなど厳しいことを言えば、もっと楽に勝てたのではないかという気もしますが、とにかくチーム一丸となって試合を盛り上げ、

接戦を制して次に繋げられたことは評価できます。同じミスでも次があれば課題となりますが、敗けてしまえば高校野球としては次に生かすことができません。2回戦、3回戦となればミスをして勝てる程甘くはないはずですので、まずは今日の戦況を冷静に分析し、修正出来ることは修正して次戦に臨んで欲しいと思います。

江口 静治 (昭和31年卒)

昭和三十年水戸一高甲子園連続出場飾れず

私は昭和28年4月水戸一高に入学した。当時の野球部は県内最強といわれ、在学3年



間は常に決勝に進み優勝した。二年生の時は、橋本、玉造選手らを擁し甲子園に出場、二年生からは深澤、木村、菅谷、杉山、関内君ら数名が選手として加わっていた。

水戸駅前広場で行われた「水戸一高甲子園出場壮行会」は人波で埋まり興奮と熱気の光景が記憶に残っている。私は二年生応援団役員として下働きの地味な活動を仰せつかり精力的に動いた。三年生になり野球部選手の木村(通)、深澤、杉山、関内、春山君らと同じクラスとなった。三年五組である。木村君とは3年間一緒だった。

当時の林校長先生、応援団顧問山崎務先生は、我々応援団に対し良き理解者でいろいろご指導を頂いた。応援団幹部に対しては、〇公(まるこう)扱いや全校生徒応援団を認めてくれたり、応援団長である私は最高に嬉しかった。私は一人で校長室に赴き「応援団役員、全生徒の応援活動を特別認めてもらいたい・・・」旨の直訴をしたことを覚えている。今では考えられないのでは・・・。山崎先生は柔道部顧問部長で、私は柔道部主将であった関係上、応援用扇子2本に『必勝』の文字を書いてくださった。我が家の家宝として今でも大事にしている。

昭和30年夏の高校野球参加校は私の記録によると35校である。試合は一回戦二回戦と段々勝ち上がり、決勝戦は水海道一高、熱戦で1対0で優勝。当時吹奏楽部はなく校歌、応援歌は全校生徒応援による絶叫と歓喜の渦の中、団長、リーダー統制のもとで唱った。一高応援団後方スタンドには水戸二高生、水戸三高生が毎回制服姿で多数応援に来てくれたことは忘れられない。

北関東大会(茨城、栃木、群馬)は群馬県高崎市民球場で行われた。これに勝たなければ、甲子園出場は夢となる。応援団は母校からバス数台で高崎球場へ行った。

一回戦の相手は桐生高で事実上の決勝戦といわれたが0対1で敗れてしまった。時の茨城新聞戦評には「両校とも投手戦となり、水戸一高は2回チャンスをつかみながら後続をたたれ、相手投手のシュートに引っかけ無念の涙を呑んだ。一高深澤投手の健闘は賞賛に値する」とある。深澤君とは卒業後も親交を重ねたが故人となった。残念である。歳月は重なり早いもので60年前のことになる。我々31年卒の応援団、野球部員、各運動部の主将や部員、同窓生の絆は強く現在も続いている。「三

十一会」会長石島院長曰く。「我々3年間の青春、友情は固い。あの炎天下で母校の名誉と誇りのためにプレーする後輩の姿は、60年前の私共と重なり合うのだ。これが原点である・・・」と。

そして今年もまた暑い夏がやってきた。高校野球健児達の茨城大会が始まったのだ。水戸一高は初戦水戸市民球場で牛久高と対戦、3対2で勝った。翌日の茨城新聞の論評には「第一回戦を制した水戸一高。勝因の一つは伝統高の『ひたむきさ』なのかもしれない」とあった。

勝ち校に贈られる校旗掲揚、そして校歌を聴く私らは感激と感動である。持参した「三十一会」の校章入りの旗は舞い上がった。

二回戦は笠間市民球場で下館一高と。対戦相手は6回まで4

点、我
校は2
点と押
され気
味、と
ころが
9回裏
もはや
これま
でかと



誰もが思っていた時、信じられない光景が起きた。相手校の失策、我が一高の安打、スクイズ、そして次の打者水嶋選手が初球をライト前にはじき返し、一気に逆転3点追加劇的サヨナラ勝ちとなった。信じられない考えられない予想もしない奇跡が起きたのである。選手、応援団、父兄、OBは歓喜の声に包まれた。我々応援団は総立ち「三十一会」旗を絶叫しながら高揚、旗振りしたのは言うまでも無い。試合後の校旗掲揚、球場から流れる校歌には全身が震え感激と感動、涙であった。

三回戦は水戸市民球場で第二シード校の明秀日立と対戦、0対3で敗れた。選手諸君よく頑張った。誇りに思う。ありがとう。

毎年高校野球が始まると必然的に体が燃え、家族からは体力が弱っている、熱中症になるからダメだ、といわれても球場に足が向く。それも20年以上続いているのである。[元茨城県警察学校長（警視長）]



飯田 芳久 (平成元年卒)

観戦記 三回戦 対明秀日立高校

一高卒業後、しばらく野球応援から離れていましたが、就職を機に茨城に戻ってからはほぼ毎年野球応援に参加しています。伝統の硬派な応援は今も昔も変わらず（今年は応援大賞を受賞）、高校時代の甘酸っぱい記憶がよみがえります。息子が小中学生の時は球場まで連れて行き、一緒に吉田の明神を踊っておりました。昨年長男が一高に入学し、生徒応援席へ。グラウンドには長男の同級生など見知った選手の姿も見受けられ、応援にいっそう熱が入ります。

さて、3回戦の相手は第2シードの明秀日立。強豪校相手に、前試合で逆転サヨナラ勝ちして勢いに乗った一高がどのような戦いを見せてくれるか、期待が高まります。前日の雨のため試合は順延され、グラウンドはややぬかるんだコンディションでした。当日も小雨の降る中、一高の先攻で試合が始まりました。

一回表、先頭の木村君がヒットで出塁。2番吉田君、3番菅谷君とも三振に倒れ、2死二塁で打席には4番の和田君。先制のチャンスに4番登場で応援席は盛り上がります。外角高め直球を振り抜きましたが、空振り三振。残念ながら無得点に終わってしまいました。

一高の市村投手は、緩急をつけた投球で相手打者を翻弄し、三回まで無失点に抑えるピッチング。また、守備陣もヒット性の当たりを好捕するなど、好守で投手を盛り立てました。



両チーム無得点で迎えた四回表。菅谷君の二塁打で1死二塁とまたも先制のチャンス。打席には再び和田君。しかし、フェンスぎりぎりのファールフライを相手三塁手に好捕されてしまいます。続く水嶋君も三振に倒れ、結局この回も無得点に終わってしまいました。

3点を追う八回にも2死一、三塁の好機が訪れますが、吉田君の打球は三塁ゴロ。得点圏に走者を進めるものの、後一本が出ません。

最終回、前試合と同様の逆転劇を期待しましたが、三者凡退。強豪校相手に善戦はしたものの、今夏はベスト16を目の前に3回戦で敗退となりました。グラウンドコンディションが悪い中、明秀打線を3点に抑えた堅い守備には感動しました。一方で、相手に7盗塁を許してしまったことは今後の課題と感じました。

大会終了後、新チームが始動し、新キャプテンの下、チーム一丸となり日々の練習に取り組んでいることでしょう。特に2年生の皆さんはいよいよ主力です。高校野球ができるのも残り1年、精一杯練習に励んで下さい。電信柱に花が咲かぬよう、一高野球部の勝利を願っております。

小貫 泰道 (三の丸倶楽部会員)

二人の孫の成長とともに

三の丸倶楽部の皆様、長い間ありがとうございました。

先日、小雨振る水戸市民球場でわが外孫(菅谷亮太)の3年生の夏が終わりました。右も左もわからぬまま入部した彼は身体も小さくあどけない表情でしたが、竹内監督はじめ皆様のご指導、ご支援のおかげで逞しく成長しました。後輩に指示を出す姿を見るにつけ、つくづく大きく成長したと実感し、胸が熱くなるのを感じました。

私は上の孫(菅谷優樹)の時から会員でしたので、足掛け5年皆様にお世話になりました。県内はもちろん、県外へも何度か追っかけて応援をしてきましたので、写真やスクラップ記事が相当数

になりました。試合では一緒にになり、勝って泣き、負けて泣き、高校野球の純粋さや素晴らしさを再認識いたしました。

今後はこの高校野球で培った精神力、忍耐力を生かし、立派な社会人として社会に貢献できる人間になることを願って止みません。これからは一会員として水戸一高4度目の甲子園出場が実現されますよう応援してまいります。

平成27年盛夏



Topics 水府倶楽部会員 美術界で活躍

平成23年卒の橋本大輔君が野球とは別な世界で異才を発揮し始めている。

銚田市立旭中出身で在学中は主に外野手として活躍し、卒業後は学芸大を経て現在は東京芸大大学院に在学中。独立(美術協会)展では一昨年新人賞、昨年は小島賞を受賞し、一躍美術界で注目され始めました。

本年4月には上野の森美術館第33回大賞展で大賞に次ぐ優秀賞(ニッポン放送賞)、7月には第4回青木繁記念大賞美術展で西日本新聞社新人賞を受賞しました。今後の活躍が大いに期待されます。

第33回上野の森美術館大賞展優秀賞
橋本大輔作品「junk」



平成27年度前半 活動報告

事務局長 森 利克

- (1) 5月19日(火)に学校長へ活動報告をしました。
- (2) 今年度の総会を去る6月14日(日)に知道会館で開催し、活動報告、会計報告を承認いただきました。事前に会員の皆様へ報告資料を配布し、欠席される会員にも年間を通じた活動の概要が判るようにしました。
- (3) 公式戦応援では春季地区大会で波崎高に2-3で惜しくも敗れました。夏の茨城大会では牛久高との一回戦では3-2、下館一との二回戦では5-4とサヨナラ劇で勝利しましたが、三回戦では明秀日立に0-3で惜敗しました。
- (4) 今年から運用を始めた新しいホームページには通常毎日100回、練習試合実施日には150回、公式戦当日は250回程度のアクセスがあり、8月25日現在の総アクセス数は約2600回で、試合結果への関心が強いようです。
会員の皆様からの応援メッセージ、感想、ご提案などを「交流掲示板」へお寄せいただき、交流の場として活用ください。
- (5) 部員たちは放課後練習の合間に毎日補食を摂っています。炊飯器が古くなり危険な状態にあつたため、業務用炊飯器を2台寄贈しました。
- (6) 8月中旬現在の会費残高は約50万円です。現場(野球部)からの要請を幹事会で検討して支援に充てさせていただきます。
- (7) 茨城大会終了後に父母会を退会された会員5名、知道会会員1名が入会されました。

三の丸倶楽部

顧問：稲葉節生 (S38年卒 元茨城県教育長)
会長：鬼澤邦夫 (S38年卒 常陽銀行会長 知道会会長)



ホームページ : <http://sannomaru-club.com>

事務局長：森 利克 (S38年卒)
幹事：照沼貞夫 (S47年卒、H20年卒父母会) 池永充宏 (H23、24年卒父母会)
田村照悟 (S52年卒、H24年卒父母会) 船橋信正 (S63年卒、水府倶楽部)
連絡先：森利克 TEL/FAX 0294-53-1351 E-mail: ihm2158@ak.wakwak.com

会員募集中!
詳細はホームページを
ご覧ください

野球が生まれた国アメリカでメジャーリーグ、マイナーリーグに加えて、秋のオフシーズンのアリゾナ・フォール・リーグと沢山の試合を観てきた。日米の野球の差は、多岐にわたる。圧倒的に多いチーム数と選手数、プレイスタイル、選手の年俵、審判の役割（権威）、GM(※)と監督と選手の関係などなど、何から何まで日本との違いが大きい。その差の根底にある考え方が勉強になることが多く、私をアメリカに足を運ばせる原動力となっている。

面白いのが観客層の違いだ。東京ドームに通ってみると、働き盛りの男性が多く、ご夫婦、恋人同士が時々と言ったところでしょうか。札幌ドームでは女性が多く、その女性たちが相手チームを含めて選手を良く知っているのには驚いた。札幌特有の客層と思う。

アメリカの球場では客層がきわめて広い。日本との差で特に感ずるのが、女性観客の多さだ。その年齢層の広さが凄い。生まれたての赤ちゃんから、幼女、若い友達グループからお母さん、そして90歳を超えていると思われるおばあちゃんまで。赤ちゃん連れの夫婦もしばしば見かける。



お父さんに連れられた少女はどの球場でも、あらゆる席・エリアにいる。お父さんは可愛い娘に野球のこと、野球場のこと、選手のことを教えている。子供はお父さんの博識に尊敬が、その愛情に感謝が生まれてくる様子が見て取れる。まさに球場は家族の絆を育てる場所なのだと感ずる。若い女性たちは野球を観るよりおしゃべりとスマホでの自分撮りに熱中しているのを良く見かけた。中には一人で来て大声で応援する若い女性もいる。流石アメリカの女性と感心する。すごいのが高齢の筋金入りの女性ファンだ。ここまで見事におしゃれをするかというおばあちゃん。こんなグッズを持っているのかとその拘りと年期の深さに脱帽だ。幼い時、お父さんに連れられてきて以来の時間があの美しい、柔らかくも迫力ある姿を育てて来たのだろう。

さて、最近本場アメリカの野球に最も近いのは高校野球ではないかと思うことがある。特に母校の試合を観ていて、米国での経験と同じような感慨に浸ることがあるのに気が付いた。わが水戸一高の父母

会の存在が感動的なのだ。嘗ては15名に満たなかった野球部員が今やその3倍強。両親の理解が無くてもとても届かない数字だ。公式戦、練習試合を問わず、保護者の応援・支援に感激続きだ。父、母それぞれのチームワークが何とも素晴らしい。我が子の応援という域を超えてチームへの思いの深さが伝わってくる。選手にとっても両親、祖父母の支援が大きな支えになっていると思う。選手とその家族の絆が、静かに且つ力強くチーム躍進の力になって行くと、また野球を通して選手が人間としての成長を遂げて行くことによって、更に家族の絆を強く太いものして行くと確信している。

※GM=ゼネラルマネージャー。チーム編成の責任者。選手の獲得、放出、新人獲得（ドラフト）の方針決定、監督の任免権などの権限を持つ。

- ・私のアメリカでの野球観戦歴
大リーグ：29フランチャイズ、65試合ほど。
マイナー：13フランチャイズ、13試合。
アリゾナ・フォール・リーグ：3試合



マイアミ・マーリンズの球場で。

赤ちゃん連れの夫婦。



テキサス・レンジャーズの球場で。
90歳くらいのおばあちゃん。自軍の攻撃の時にたたくタンパリンに選手のサインがあった。



サンフランシスコ・ジャイアンツの球場で。



立ち上がって応援するファンの帽子にはピンバッジがぎっしり付いていた。

(入魂第16号に続く)

「高校野球100年」という節目の年。長い歴史と伝統があり、数々の先輩方がいるこの水戸一高で、ついに新チームがスタートしました。今年のチームは、経験豊富な市村、本格派の古川を中心に様々なタイプの投手がおり、その投手陣を中心に粘り強く守り抜くチームです。打撃陣は、俊足の佐藤、川田などが足を使った攻撃で相手を揺さぶり、また、エンドランなどの機動力を駆使し、少ないチャンスをもものにします。

今年の夏の大会三回戦、対明秀日立戦は0-3で敗れました。試合後、たくさんの方から「惜しかったね」「よく頑張った」と、たくさんのねぎらいの言葉をいただきました。しかし、敗れたあとのねぎらいや賞賛ほど悔しいものではありません。本当にほしいのは、「勝利」という結果です。強豪相手に互角の戦いをし、自信にはなりましたが、そこで勝ちきらなければ意味がありません。先輩たちが届かなかった強豪私立の壁、3点差を自分たちは乗り越えていきます。どうして3点取られてしまったのか、どうして1点も取れなかったのか、自分たちには何が足りなかったのかを追求し、今年こそ強豪校に勝ちます。そのためには、部員全員がチームのことを考えることが必要です。「何がこのチームに足りないのか」「どうすればこのチームは強くなるのか」などを他人任せの受け身の姿勢ではなく、「自分がこのチームを強くさせる」という強い気持ちで全

員が持つことで、チームが一丸となり、チーム力が上がっていくと思います。

今年のチームテーマを「粒々辛苦」にしました。この言葉の意味は、穀物の一粒一粒は農民の苦労と努力の結果実ったものである、ということです。日々の辛くて苦しい練習を乗り越え、努力を重ねた先には、「勝利」という大きな喜びが待っていると思います。タレントがいなく、個人の能力だけでは勝てないかもしれません。しかし、一人一人が自分の役割を全うし、それが束になり、一丸となって闘えば、勝機がかなり近付いてきます。このチームテーマのもと、全員で足並みをそろえて、「夏の甲子園出場」という目標に向かって戦っていきます。応援よろしくをお願いします。



硬式野球部 名簿

(敬称略)

部長 小島 淳 監督 竹内 達郎 顧問 武士 敬一 太田 泰助



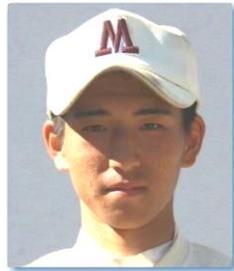
主将 市村 悠大 二年
美野里中
投手



石津 賢弥 二年
茨大附属中
内野手・投手



皆藤 駿之介 二年
双葉台中
内野手



金子 舜 二年
大洗一中
内野手



佐藤 広基 二年
大島中
内野手



静岡 崇元 二年
水戸一中
外野手



鈴木 文健 二年
那珂一中
内野手



早船 祥希 二年
水戸二中
捕手・投手



古川 稔己 二年
多賀中
投手・内野手



山口 諒 二年
千波中
外野手



水庭 侑香 二年
駒王中
マネージャー



内桶 達史 一年
友部中
捕手・外野手



内野 汰一 一年
城里常北中
内野手



大賀 悠生 一年
泉丘中
外野手



加藤 優作 一年
城里常北中
内野手



川田 尚輝 一年
水戸三中
外野手



栗原 幸太郎 一年
水戸四中
捕手・内野手



香西 健匠 一年
茨大附属中
投手



小柴 鴻士郎 一年
茨大附属中
内野手



嶋 凌外 一年
東海南中
内野手



田中 希 一年
水戸一中
内野手



常井 直樹 一年
友部二中
内野手



飛田 怜央奈 一年
太田中
内野手



中村 祐斗 一年
瑞竜中
内野手



萩谷 大智 一年
笠原中
外野手



幡谷 寛朗 一年
茨大附属中
外野手・投手



馬場 達哉 一年
水戸二中
内野手



深田 皓太 一年
大島中
内野手



五十嵐 愛美 一年
英宏中
マネージャー



大原 めぐみ 一年
英宏中
マネージャー

【8月2日 対勝田高校練習試合】



試合結果・予定

平成27年度前半 公式戦・準公式戦結果

月	日	大会	球場	結果
4月	15日	春季地区一回戦	水戸市民	●2-3 波崎
5月	30日	市内	常磐大高	●3-4 桜ノ牧
7月	7日	茨城大会一回戦	水戸市民	○3-2 牛久
	11日	茨城大会二回戦	笠間市民	○5-4 下館一
	17日	茨城大会三回戦	水戸市民	●0-3 明秀日立
以下新チーム				
8月	19日	ジュニア一回戦	波崎柳川高	○4-3 水戸工
	22日	ジュニア二回戦	〃	●4-9 波崎柳川

平成27年度前半 練習試合結果

月	日	場所	結果
3月	8日	下館工	●3-4 牛久 ○10-7 下館工
	15日	水海道一	●1-10 水海道一 7回 △1-1 〃 4回
	22日	富士宮北	○2-1 〃 ●1-3 富士宮北 静岡県立 ○7-3 〃
	26日	水戸一	●0-4 〃 5回 ○4-2 日立一 ○4-3 〃
	28日	水戸一	●7-8 安積 福島県立 ○7-5 〃
	29日	水戸一	○8-3 新津 新潟県立 ○11-1 〃
	31日	笠間市民	○12-3 弘前 青森県立 ●3-6 帝京長岡 新潟私立
4月	2日	牛久栄進	○3-2 牛久栄進 ●4-7 〃
	4日	石岡一	○4-1 〃 5回 ○4-2 宇都宮 栃木県立 ●4-5 石岡一
	5日	清真	●0-2 清真 ○3-1 〃
	18日	中央	○2-1 中央 ●1-5 〃 5回
	19日	水戸一	○5-1 安達 福島県立 △8-8 〃
	26日	牛久	○4-2 牛久 2チーム編成 ●3-5 茂木 栃木県立
		中央	○5-4 中央 2チーム編成 ○8-5 水戸工
	29日	石下紫峰	●0-1 石下紫峰 2チーム編成 ○14-4 〃
		勝田工	○5-0 勝田工 2チーム編成 ○6-0 〃 1年、5回 ○5-3 〃
5月	5日	水戸一	●3-4 宇都宮 栃木県立 ●0-6 〃 1年、4回 ○13-12 〃
	6日	土浦一	●2-5 土浦一 ○5-4 〃 1年、5回 ○9-5 〃 ●3-10 〃 6回
	10日	緑岡	○9-1 緑岡 ●5-10 〃
	23日	作新学院	△4-4 作新学院 ●1-7 〃
	31日	波崎柳川	○12-2 清真 △4-4 波崎柳川
6月	7日	水戸一	○5-3 佐原 千葉県立 ●1-3 〃
	14日	取手松陽	●3-5 東洋大牛久 ●0-6 取手松陽
	22日	岩瀬日大	○5-4 岩瀬日大 ●2-10 〃 1年 ○11-2 〃
	23日	国学院栃木	2-1 国学院栃木 4回裏雷雨中止
	28日	下館工	△4-4 下館工 ●1-6 〃 1年、7回 ○5-0 〃 新チーム ○4-0 〃

新チーム 平成27年度前半 練習試合結果

月	日	場所	結果
8月	2日	勝田	○16-0 勝田 筑波大関係交流戦 7回 ●1-8 土浦湖北 7回
	4日	竜ヶ崎	●4-9 竜ヶ崎 △3-3 〃
	6日	笠間市民	△4-4 綾瀬 神奈川県立 △9-9 〃
	9日	水海道二	○4-3 水海道二 ○10-5 〃
	10日	土浦一	●3-4 土浦一 △3-3 〃 ○5-4 〃 7回
	12日	慶応(日吉)	●4-19 慶応 ●5-13 〃
	15日	白河GS	○4-1 安積 福島県立 ○7-1 〃
	27日	たつこの球場(竜ヶ崎市)	○7-0 牛久 △4-4 〃

平成27年度後半試合予定 (H27.8.28現在)

月	日(曜)	大会・対戦校・会場等 (V:相手高G、H:水戸-G)
8月	29(土)	水海道一 (V)
	30(日)	下館一 (V)
9月	4(金)	秋季地区予選組合せ抽選会
	6(日)	真岡 (V)
	10(木)	秋季水戸地区予選 (~9/14)
	18(金)	秋季県大会組合せ抽選会
	19(土)	つくば国際 (V)
	21(祝)	下館工 (H)
	22(祝)	波崎柳川 (V)
	25(金)	秋季県大会 (~10/4)
10月	3(土)	勝田工 (V)
	4(日)	柏北 (V)
	12(祝)	取手二杯
	18(日)	敬愛学園 (V)
	21(水)	秋季関東大会組合せ抽選会
	24(土)	一年生大会 (~10/25)
	31(土)	秋季関東大会 (~11/14) (於 埼玉県)
11月	1(日)	中央 (V)
	8(日)	菊池杯 筑波大関係交流戦
	15(日)	緑岡 (V)
	29(日)	定期戦 対水戸商業 (V)

※試合予定は三の丸倶楽部ホームページでご確認ください。

編集後記

この夏は高校野球 100年のメモリアルイヤーということで、色々なところで高校野球特集を見かけました。その中に、NHK-BS「わがふるさとのベストゲーム」という番組がありました。名勝負を都道府県別に紹介し、映像と共に当事者が語るというものでした。当たり前的事ではありますが、時間の流れは勝者にも敗者にも公平です。かつての紅顔の美少年が中年道をまっしぐらだったり、ビッグマウスの俺様スラッガーが孫相手にキャッチボールをしている姿を見ると、なつかしいと思うと同時に「思えば遠くに来たもんだ」感を抱いてしまいます。光ある所に影があると申します。(サスケかよっ)あの球児たちの「それから」の人生はどんなだったのでしょうか。生涯野球で食べていくなど、好きなことだけで人生を貫ける人はごくわずかで、みんなどこかで現実と折り合いをつけて生活しているものです。高校野球OBたちの人生が実りある豊かなものであるよう願ってやみません。さて、今回の入魂15号には、この夏の総括とも言える読み応えのある原稿がたくさん集まりました。この熱い思いが新チームを少しでも後押しできれば良いと思います。3年生の皆さん、お疲れ様でした。(照沼)